

“一市一連盟”

一貫性を持った剣道指導



雨宮 優 (あめみや ひろし)

昭和55年国立剣道連盟に加入後、平成20年から国立剣道連盟の理事として、主に「ジュニア育成地域推進事業」に携わっています。国立市の「一市一連盟」の特性を活かして子どもたちに一貫した指導をする他、ご自身も修行を続けられています。

剣道をはじめられたきっかけを教えてください。

高校生の時に剣道部に入部したいと思いましたが、休部状態で叶わず、その後、勤めた旧国鉄で鉄道公安職員(鉄道警察隊の前身)に拝命され、その中で鉄道公安機動隊に所属しており、剣道・柔道は正課であったため、剣道を始めました。

国立市剣道連盟に加入されたきっかけを教えてください。

昭和52年、当時市内にあった剣道場の国立錬心館(現在は閉館)に子どもが入門した際、館長の関根先生が私の職業を知って進めてくださり入門いたしました。

当時市内の剣道場に入門したので剣道連盟の所属は国立剣道連盟に所属することになりました。

連盟や体育協会ではどのような活動をされましたか。

錬心館が閉館してからは稽古の本拠地は国立剣道連盟になりました。国立剣道連盟では、主に子どもたちの指導と同僚会員と共に修行を行っています。

また、平成25年4月から国立第三中学校剣道部の外部指導員として週3回剣道部の指導を行っています。体育協会では、剣道連盟理事として体育協会と剣道連盟の「つなぎ役」が主な役目で、以前は体協の「事業

部」「評議員」等も勤めさせていただきました。体協のイベントには国立ウォーキング、ファミリーフェスティバル、くにたち市民まつり等に剣道連盟から参加できる要員を手配し、体協の活動に協力してきました。

剣道という競技の魅力を教えてください。

剣道は段位があり、大雑把にいうと初級・中級・上級に分かれています。が、上級に当たる高段者の先生方は初級者や年齢に関係なく日々稽古を行い、真剣に指導して下さいます。

国立剣道連盟では未就学児から小・中学校、高校、大学、社会人と幅広く人員構成されており、ご高齢の方も一同で稽古しております。つまり「誰でも稽古ができる」のが魅力の一つです。

剣道の修行は奥義を窮めるのは深遠であり、生涯修行と云われており、ご高齢の方も高段者の先生方も修行・研究をしているところが魅力でしょう。私も後期高齢者で剣道6段をいただいておりますが、身体の続く限り修行を怠らないようにしたいと考えています。

地域における剣道競技の今後についてどのようにお考えですか。

各市の剣道連盟は幾つかの剣道教室等が集まり連盟となっています。国立剣道連盟は「一市一連盟」で素早い意思統一が特徴であり「家族的

雰囲気」で活動しています。

指導陣はこの特徴を活かして少年少女にはぶれない一貫性を持った指導を行っています。少年少女が剣道を通して学んだことを生活に活かして人格形成の基礎作りを続けていくのが地域における貢献と考えます。

中学以下の部は「父母会」が組織されており、親御さん方の意思疎通は固く、子どもたちの「見守り」はもとより、稽古補助や剣道大会等様々な面で非常に熱心に取り組んで頂いています。この有難い伝統を守りながら更に会員の拡充を図りたいと思います。

剣道はお互いに深い絆を生む特性がありますので未経験の成人の方も多いに入会していただいて地域の方々の絆が深まれば剣道の発展と共に社会貢献に繋がると考えています。



▲剣道の稽古の様子  
◀剣道着姿の雨宮氏